

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市宮城野児童館
2	指定管理者	社会福祉法人宮城厚生福祉会
3	指定期間	平成27年4月1日から平成32年3月31日まで
4	施設の利用状況	《利用者数》35,262人 (前年度比 110.8%) 平成28年度 31,812人 平成27年度 30,838人 平成26年度 29,446人
		《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 32,399千円 (28,468千円) ( )は前年度決算額 ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)
		《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート, 児童館運営懇談会, 児童クラブ保護者会を実施。

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	児童館の設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示、ホームページ等で利用者にも周知している。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	S
II	施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な運営管理体制が構築されている。また、施設内外の日常点検及び定期点検、毎月の避難訓練の実施等、安全に留意した運営に取り組んでいる	S
III	施設・設備の維持管理	日常的・定期的な保守点検や清掃により、建物、設備、外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取組みが実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	S
IV	サービスの質の向上	名札の着用、館内掲示による職員紹介、児童館だよりの発行やホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境作りに取り組んでいる。また、意見箱の設置、アンケートの実施等を通して利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	S
V	施設固有の基準	児童クラブにおいては、子どもの主体性を大事に考え、日頃から子ども会議として上級生がリードを取って自分たちで遊びのルールを考える機会を作るほか、高齢者施設を訪問して交流を図る行事等も実施している。1歳児向けの幼児クラブの新たな立ち上げなど子育て支援に積極的に取り組んでいるが、更なる地域との連携強化に向けた子育て支援クラブの立ち上げも期待される。	S

### 三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

### 四 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人宮城厚生福祉会）による自己評価》
<p>仙台市指定管理者制度の趣旨に則り、利用者第一の運営を続けてきた。                      放課後健全育成事業として、東宮城野に児童館ができた今年度も140名を超える登録児童に対し安全で充実した遊びと生活の支援ができるように改善を重ねてきた。                      安全が何よりと捉え、室内・遊戯室・分室・校庭それぞれに子どもの見守りに必要と思われる職員を配置するように努めた。同時に安全に対する共通理解や事例検討を進め、大きな事故なく子どもの遊びを保障することができた。                      活動内容の充実では、従来からの、仙台市工業高校・田子のまち介護老人施設・乳銀杏保育園との連携事業に加え、次のようなことに取り組んだ。①開館10周年記念館祭りとして地域の食育サークルの協力を得て、子ども屋台の実施。②要望を受けて、地域の介護老人施設の訪問。③高学年対応の一つとして、卒業生企画・おやつパーティーの開催。同時に卒業のお祝いとしてエアギターライブの開催。これらを通して多様な子どもの要望に応え、子どもの遊びの力を伸ばすことができた。                      また、要支援児に対して事例研究のように継続して職員会議で支援の在り方を検討してきた。これは子どもを見る目を育て、職員の研修にもつながった。                      子育て支援については、新たに1歳児対象の「ひよこクラブ」を発足させ、0歳から2・3歳まで切れ目のない支援ができるようになった。毎月の行事も充実させ、保護者の方に満足していただける支援ができた。(アンケートによる)                      地域との関りでは、愛好会・ボランティア活動がさらに充実し、ボランティアによる「ピアノで遊ぼう」が定例化し、保護者の方の申し出による工作教室、大学生による理科実験コーナー等が開催された。ボランティアと共同の児童館運営ができたのも特徴の一つだった。                      この1年、子どもの遊び文化を育て・地域の文化形成に関わることができ、利用者の要望に応えることができたと思えている。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>地域の児童館として、隣接する高校との連携のもと、地域住民を対象とした定期演奏会などを実施しているほか、地域のボランティアの協力を得ながら、乳幼児対象のお話し会や囲碁・将棋の教室等を行うなど、積極的に世代間交流事業を実施している。また、小学生を対象に職員による英語のお話し会や工作の時間を設ける等、日常遊びの工夫が図られており評価できる。                      地域交流事業においては、地域のハンドベルサークルと連携し、館まつりなどで演奏してもらっているほか、児童が地域の高齢者施設を訪れるなど積極的に取り組んでいる。子育て支援においては、発達段階や季節に応じた企画を工夫して実施し、乳幼児親子の憩いの場として利用されている。また、利用者からの意見等を積極的に取り入れた館運営を行っており評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進室